

*** 65cm 屈折望遠鏡の珍しい写真（ドームの窓が内側から写っている）発見**

65cm 屈折望遠鏡は昭和4年（1929年）、早乙女台長の頃、橋元昌矣氏を中心に組み上げられた。65cm 望遠鏡ドームには窓があったという記事をアーカイブ室新聞170、171号に書いた。その後東京天文台にあった60m 鉄塔の記事にも何度か窓のある65cm 望遠鏡ドームの写真に掲載した。今となっては65cm 望遠鏡ドームに窓があったことなど知っている御仁はいない。8.2m 望遠鏡「すばる」のドームに窓を設けて、夜間ドーム内に風を通して、外気温とドーム内の気温差をなくす工夫をしたフラッシングドームと言ったが、1929年設置の65cm 望遠鏡ドームにも窓があった。この窓はおそらくフラッシングのためではなく、明かり取りの「天窗」として設けられたものと思う。今まで発掘された65cm 望遠鏡ドームの写真はすべて外側から撮影されたもの（写真1）で、内側からは窓が塞がれた痕跡の写真しかなかった。ところがこの度、ドイツから珍しい写真（写真2）を入手した。

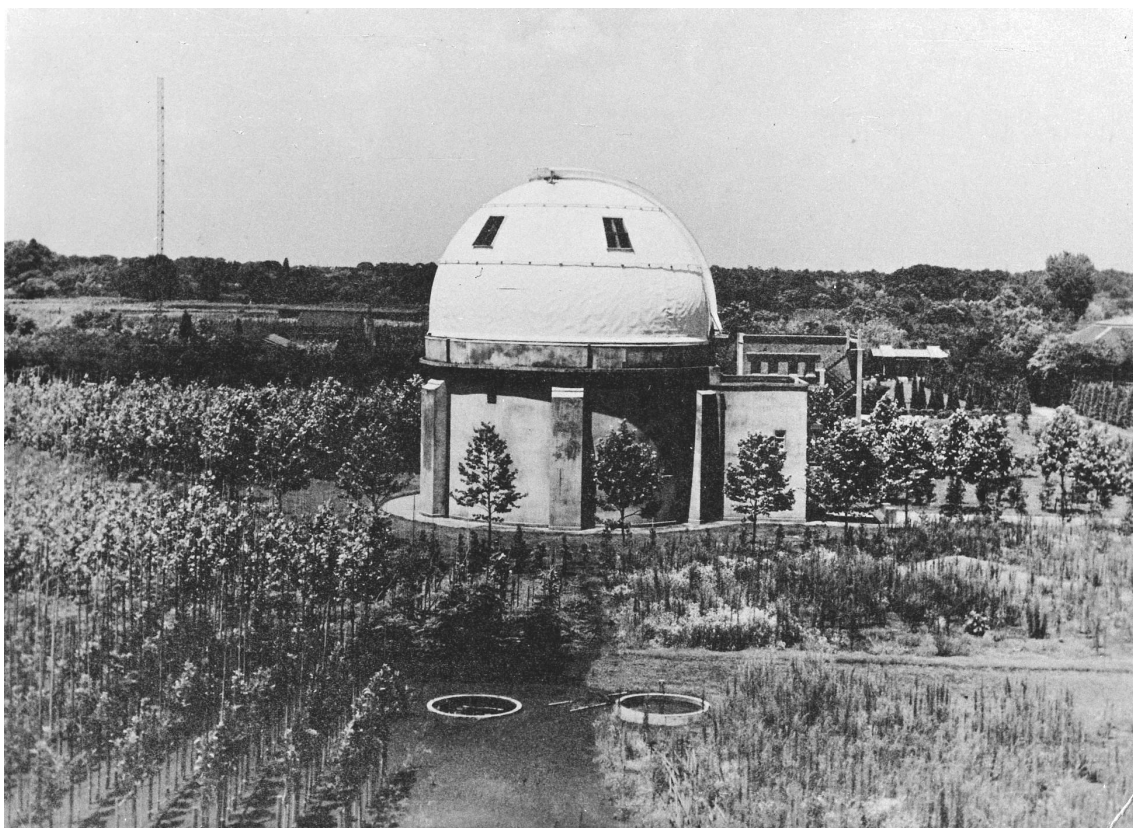


写真1 窓が写った65cm 望遠鏡ドーム

2010年3月11日、ロサンジェルのGriffith天文台のMatt Ventimigliaという人から、web担当者にツイスが製作した24インチより大きな大望遠鏡の3台の内の一つが東京にあるはずだが、今もあるか？という質問があり、シリアルNo. 661の望遠鏡だと言って

きた。65cm 望遠鏡のシリアル No. を探すのは容易ではない。赤道儀の架台のピラーに貼られたツアイスの名盤（写真 3）にはシリアル No. はない。そこでどこかにシリアル No. 661 の望遠鏡の証拠はないかと探したところ、65cm 望遠鏡の時計装置にシリアル No. があった（写真 4）。そして納入時の天体写真撮影の写真乾板の取枠（カメラ）にシリアル No.（写真 5）があったので、この 3 点の情報を提供した。

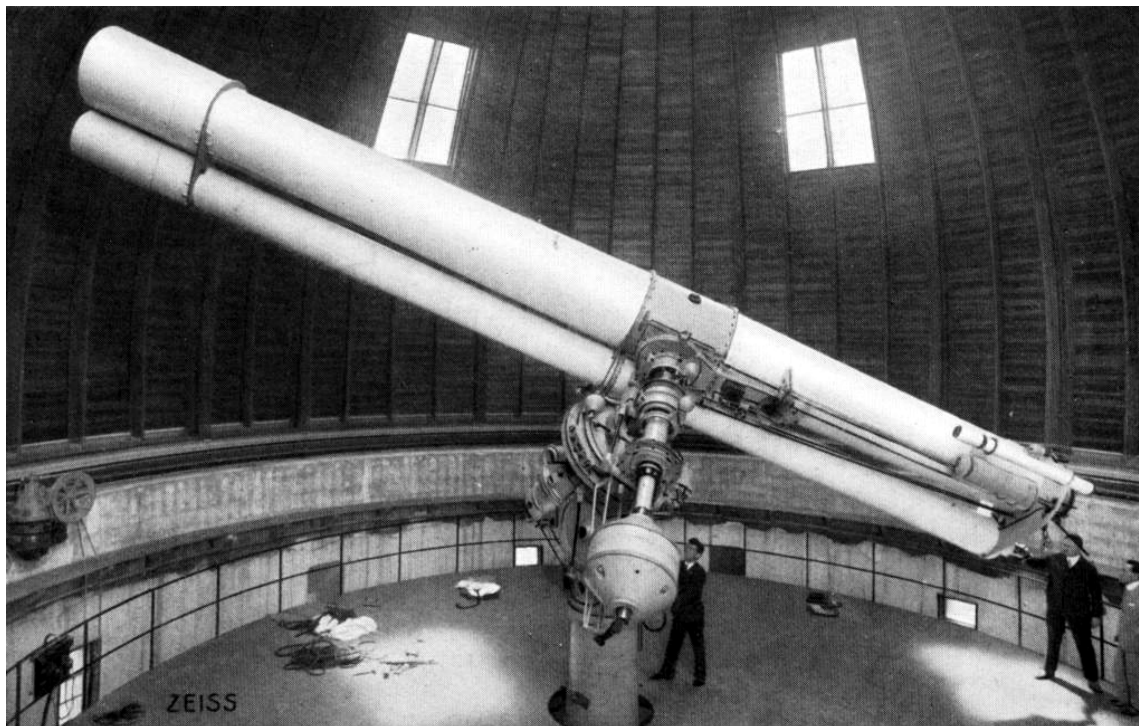


写真 2 ドーム内部から窓が見える 65cm 屈折望遠鏡の写真（“Carl Zeiss archives”）

すると、お礼のメールに 2 枚の写真が添えられていた。日本の東京天文台で組み立てられた直後に撮影されたらしいものであった。その写真は 65cm 屈折望遠鏡の長い鏡筒の向うのドームに 2 個の窓がはっきりと写っていたのである。



写真 3 65cm 望遠鏡の赤道儀架台のピラーのツアイスの名盤



写真4 65cm赤道儀の時計装置の名盤のシリアルNo.11745

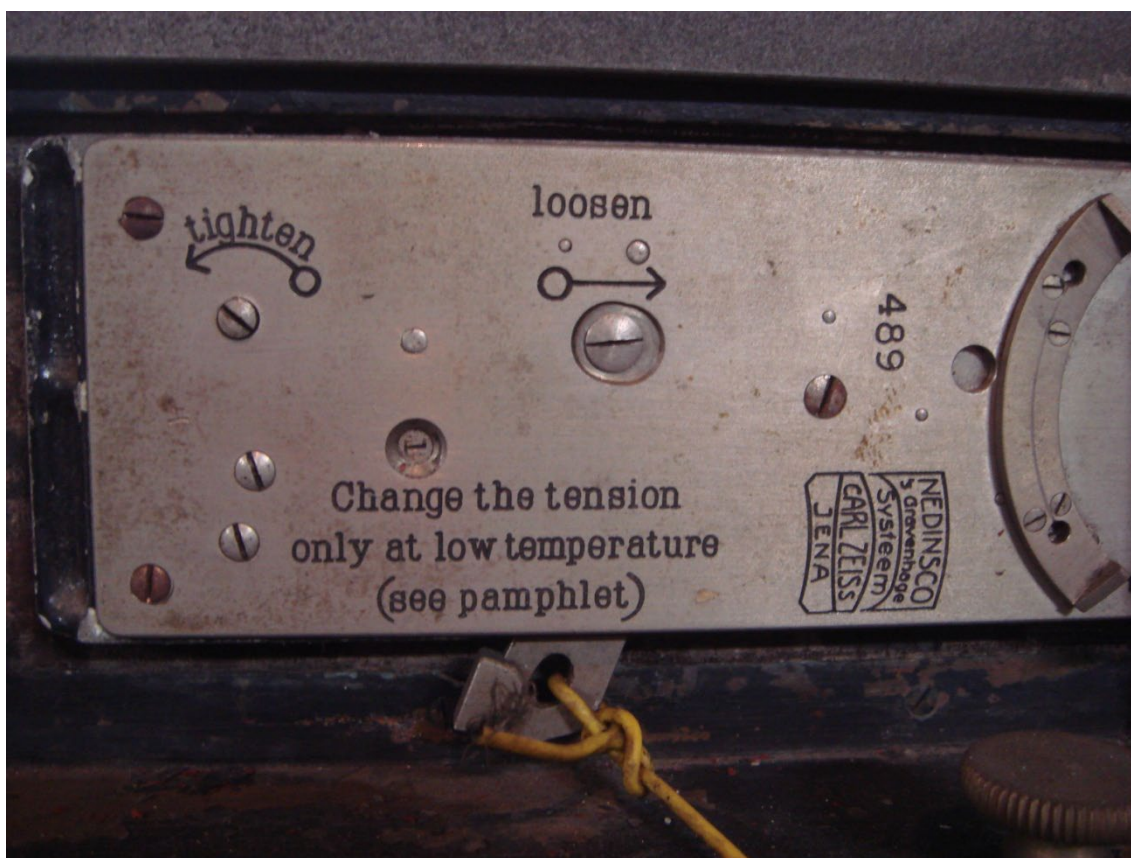


写真5 65cm屈折望遠鏡のカメラ部の名盤のシリアルNo.489

Matt Ventimiglia 氏の情報によると 3 台製作された残り 2 台の一つはドイツのベルリン

に、残る一つはユーゴスラビアのベルグラードにあると書かれていた。
送られてきたもう1枚の写真が写真6である。この写真にも窓が写っている。

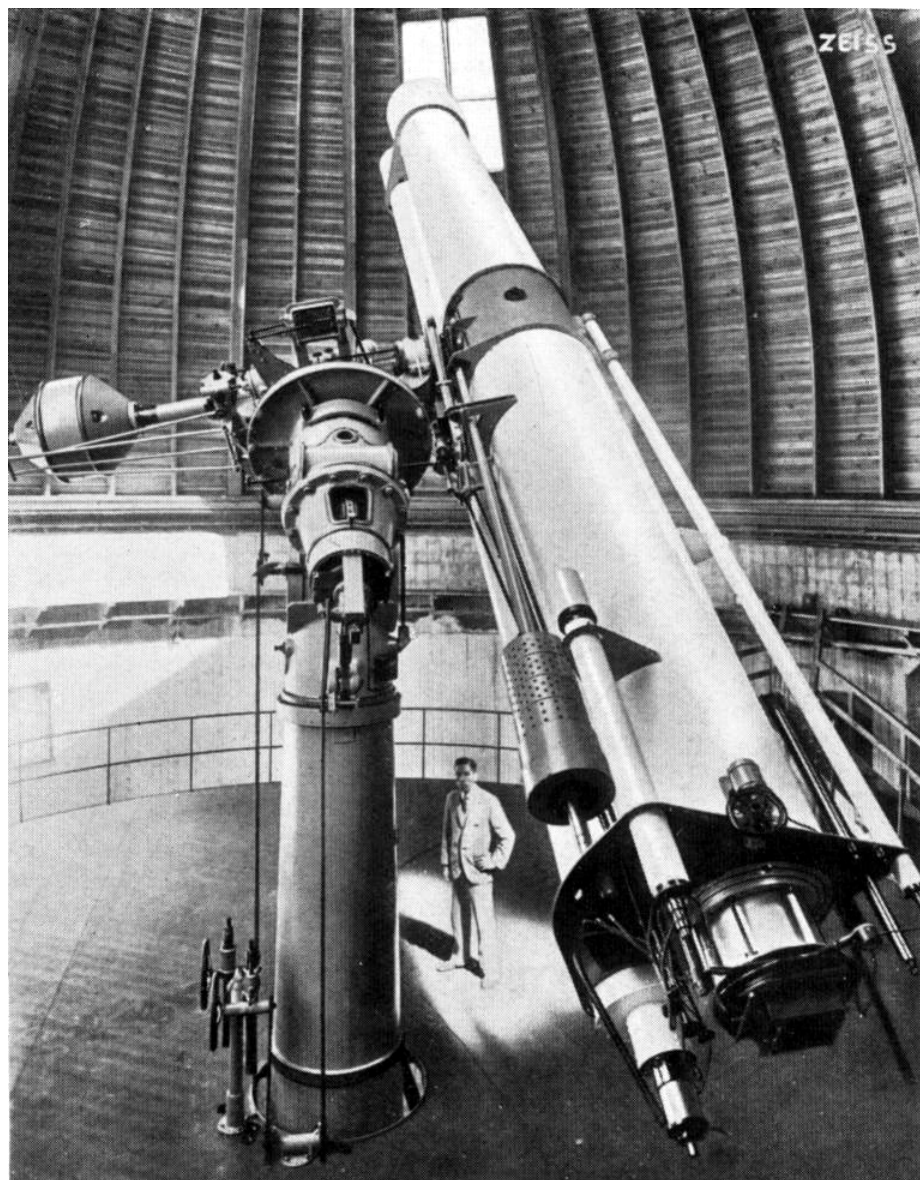


写真6 設置間もないツァイス製 65cm 屈折望遠鏡 (“Carl Zeiss archives”)

写真2、写真6の著作権は Matt Ventimiglia 氏にはなく、アーカイブ室新聞に掲載するなら、ツァイスの Dr. Wolfgang Wimmer 氏から許可を得るようということであった。この度、Dr. Wolfgang Wimmer 氏から“Carl Zeiss archives”と著作権を記載することで掲載許可をいただいたので、この珍しい写真を紹介する次第である。